

とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 フードバンクとちぎ

代 表 理事長 古 川 明 美

住 所 〒323-0822 栃木県小山市駅南町1-12-32

TEL 0285-27-2788

E-mail foodbanktochigi@gmail.com

URL <http://foodbanktochigi.blog.fc2.com>

❀ 目 的 ❀

フードバンクは、食品関連企業や量販店、個人などから、商品としての価値は無くなってもまだ安全に食べられる食品を無償で寄贈していただき、食べ物を必要とする施設や個人に無償で配布する活動です。日本の食品廃棄物総発生量は、2012年に2,272万トンもあり、このうちまだ食べられるにもかかわらず捨てられてしまう「食品ロス」が約800万トン含まれると考えられています。

こうした膨大な量の食品ロスは無視できない問題となっており、削減のために様々な取り組みが進められる中で、フードバンクは、近年有効な活動として注目を集めています。

フードバンクに参加する人が増えれば、それだけ食品ロスが減ることになり、その分有効に活用されることとなります。

私たちは、東日本大震災発生時の深刻な食品不足の経験を踏まえ、フードバンクを通じて、食品の支援が必要な人はもちろん、すべての人が必要な時に必要な食べ物を手に入れられる社会を実現していきたいと考えており、すべての人が安心して暮らせる社会の実現に貢献することを目的としています。

❀ 事業内容 ❀

(1) フードバンク活動

① 定期的な食品の引き取りと配送

毎週土曜日に、支援企業から生鮮食品や冷凍食品などを引き取り、施設などへ届けています。

② 不定期な食品の受け入れ

企業や他のフードバンク団体から、不定期に缶詰や飲料、菓子などの食品を受け入れています。

③ 個人からの食品の受け入れ 家庭や個人からも食品寄贈を受け入れています。

④ 他のフードバンク団体との協力

互いに必要とする食品を補うことにより、種類の充実を図っています。

(2) フードバンク普及のための活動 WEBサイトなどで活動の主旨や内容を紹介しています。

(3) 支援企業等 定期的な支援企業 2社

(4) 支援施設等 16施設等（児童養護、児童厚生、自立援助ホーム、障害者授産等、個人）

❁ 活動報告 ❁

2012年6月より、施設や食べ物に困っている人などに食品の定期配送を始めています。2012年度の寄贈品取り扱い量は約10,800kgで、寄贈品の市販推定額は約4,951,000円でした。内容は、パンや米製品、麺類など主食になるものから、コロッケや餃子、缶詰などのおかず、そして野菜や果物、スープや飲料、菓子に至るまで様々なものがあります。

2013年度には取り扱い量も増え、9月末までの半年間で既に約7,300kg、市販推定額は約5,000,000円になりました。量の増加もさることながら、扱う種類も増えてきています。

苦労している点として、フードバンクが取り扱う食品は、寄贈の状態に依存し計画的に入手できないため、施設向けに仕分ける際に施設の入所者や年齢などに合わせていくのが難しいことが挙げられます。必要な食品を更に増やし充実させていくには、活動の規模を拡大しなければなりません、資金面で課題があります。

この度、栃木県経済同友会様から助成金を頂き、ソース類が収納しやすいポケット付きの冷凍室がある冷蔵庫と保冷効果の高いクーラーバッグを購入し、主に冷凍食品の保管と配送時の品質管理のための設備を拡充することができました。

これにより、多量の冷凍食品が寄贈された際にも保管と配送の対応が可能となった他、保管時の商品の分類も容易になり、管理面でも効果がありました。

定期的な活動を始めたことにより、配送先の児童養護施設からは、「施設の子どもたちにとって、食事とおやつは何よりも楽しみな時間であり、普段なかなか食べられない珍しいおかずやデザートなどを食べることができて、一人一人の表情もとても明るくなった。」「お弁当や夜食の品数が増えて助かっている。」といった感想を頂いています。

❁ メッセージ ❁

私たちは、2010年3月から活動を始め、2012年1月にNPO法人を取得しました。メンバーは全てボランティアで週末中心の活動ですが、それでも食品の取り扱い量は年々増加しており、平日の活動も増えてきています。

フードバンクの発展に伴い、食品を扱う団体として最も大切な「安全と安心」を守るための新たな基準づくりが始まっています。私たちは、これまでも食品の品質保持とトレーサビリティに留意してきましたが、今後も皆さまに愛される団体となるよう努めて参ります。一人でも多くの方々のフードバンクへの参加をお待ちしています。



配送先の児童養護施設の子どもたちと一緒にパチリ☆



助成金で購入した冷凍庫とクーラーバッグ（右奥）

ちゅうとしつちょう なんちようしゃ かい 中途失聴・難聴者の会 とちの葉

代表 会長 磯 島 都 子

住 所 〒324-0032 大田原市佐久山4344-75
TEL・FAX 0287-28-1393
E-mail miya.sirayuri@crem.plala.or.jp

❀ 目 的 ❀

この会は、お互いに人格を尊重するという精神のもと、中途失聴・難聴者への理解と福祉の向上を目指す。と共に会員相互の親睦を図り様々な人々、団体との交流を通じて、心の痛みを分かち合える人材を育成することを目的とする。

❀ 事業内容 ❀

1、中途失聴・難聴者に対するコミュニケーション支援活動

- ①音声言語を取得した後、おおむね思春期以降、もしくは成人になってから音を失った中途失聴・難聴者は、音声情報を文字情報（日本語を基本とした）に変換することにより、健聴者と同じ情報を得ることができる。そのための支援の方法として要約筆記（文字通訳）がある。各市町や県で養成された要約筆記者の技術アップのための勉強会を開催し、レベル、質の高い、要約筆記者を育成し、コミュニケーション支援事業の派遣事業へとつないでいる。
- ②聴覚障害者と共に活動する際に、常に文字情報を提供することで、会話、会議等への参加ができ、スムーズなコミュニケーションを取ることができる。

2、聴覚障害者への理解を深めるためのPR活動

- ①聞こえない障害は目に見えず、社会の中でも気づかれにくい。さらに中途失聴・難聴者は話すことができるので誤解されやすい。そのために、各市町主催の福祉祭りやイベントなどに参加し、対話をしたり、チラシ等の配布、通訳を付けることで、可視化させ、知ってもらおう活動をしている。
- ②各地域に聞こえない人が数多くいることは、把握しているが、どこに誰がいるかの情報を集めることができない。そんな現状の中で年に一度、「コミのつどい」を開催している。聞こえない本人、家族、関係者に呼びかけている。方法として各市町広報誌への掲載、ケーブルテレビでの放映、役所等の窓口でのチラシ配布を行っている。参加者は同障害者の悩みを聞いたり、ゲームをしたりして交流を図っている。

3、親睦行事等の立案と実施

① 新年会

毎年、1月に会員同士の親睦を目的とし、食事会を開催している。障害者の間に要約筆記者・手話通訳者が入り、文字情報を出しながら、和気藹々の食事会。参加率は80パーセント。

② 総会

年度の締めくくりとして、6月に総会を実施している。会の運営も気になるところだが、そのあとの交流会が楽しみで参加者が多い。専門家に依頼するゲームや豪華？な、賞品付のビンゴゲームなど1日かけてたっぷり楽しむ。

③ 研修旅行

年に一度、バスをチャーターしての研修旅行。研修と名が付くのは、要約筆記者の現場実習的な要素を含んでおり、技術が伴わなければ情報を保障することはできないので、日頃の勉強の成果のみせどころとなっている。そして、歴史を学び、各地の名所を堪能している。

これまでに、皇居見学、キリンビール工場、なか川水遊園、那須平成の森、そして今年は足利方面。



足利研修旅行鑱阿寺にて

4、その他の活動

①会報の発行…年4回（会員紹介や行事・イベントの報告、会員のコラム）

②障害者関係のイベントへ参加・協力。

③聴覚障害者理解への医師会訪問、市町への要約筆記・難聴者のための手話講習会開催の要望書提出。

❁ 活動報告 ❁

**** ついに10月22日、プロジェクターお披露目 ****

助成金を頂いたが要約筆記を行うための機器を全て購入するには、資金不足。しかし、1日も早く機器をそろえて、聴覚障害者の集まりには、OHCを使った、全体に映し出す、要約筆記をやりたいかった。そこで、助成金でプロジェクターを購入（助成金15万円：プロジェクター23万円）。これだけでは要約筆記はできず、ほかの機器も購入したが大幅な資金不足。支払いは業者さんとの交渉で、バザーなどの収益金が上がってから、と配慮していただいた。

これで、いつでも、どこでも、自由に自分達の機器を使って、情報を保障することができる。聞こえない人たちの待ちに待った笑顔で、要約筆記者もニコリ。

行動範囲も広がり、何人の聴覚障害者が参加しても困ることもなく、他団体に頭を下げて機器の借用をすることもなく、本来の要約筆記で聴覚障害者の支援ができる。



購入機器を使っでの要約筆記の様子

とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人

とちぎ ほしよけんきょうかい 栃木補助犬協会

代表 理事長 尾崎 史郎

住所 〒320-0065 栃木県宇都宮市駒生町1120-10
TEL・FAX 028-624-0112

❀ 目 的 ❀

この法人は、身体障害者補助犬の育成、調査、研究、使用指導等及び啓蒙、啓発活動、そして人と犬とが、より絆を深めるための訓練しつけの事業及び動物介在活動に関する事業を行う事によって社会福祉に寄与する事を目的とする。(定款より)

近年身体障害者補助犬法が施行され、公共の施設や交通機関、宿泊施設や会社、住宅等では補助犬を受け入れるように努めること、また補助犬利用者に対して協力するように義務付けられた。そこで補助犬がもっと一般社会に受け入れてもらえるような啓蒙PR活動を行い、市民の障害者福祉に対する意識の向上を図る。

また補助犬の育成、啓蒙を通して身体障害者の自立社会参加に貢献し、そして当会が持つ知識や経験、技術を生かして他分野の専門家と協力しつつ障害者施設への訪問(動物介在活動)や学校等での「盲導犬ふれあい教室」の開催を通して人と動物との共生社会を目指し、障害者と補助犬が地域社会に自然に受け入れられる豊かな社会の実現を目指して活動する。

❀ 事業内容 ❀

特定非営利活動に係わる事業

- ① 補助犬の育成・訓練
- ② 補助犬利用者のフォローアップ事業
- ③ 補助犬希望者の相談事業
- ④ 補助犬の啓発事業
- ⑤ 動物介在活動
- ⑥ 犬の訓練・しつけ事業
- ⑦ 補助犬の調査研究



❁ 活動報告 ❁

○盲導犬の育成と視覚障害者への譲渡、盲導犬との生活による生活範囲の拡大

○栃木県内の小学校にて出前福祉講座を開催

○宇都宮市適応支援教室まちかどの学校へ週1回訪問して動物介在活動の実施

身体障害者補助犬の育成、啓蒙活動により障害者の社会参加促進と障害者と補助犬が地域社会に自然に受け入れられるよう、障害者福祉に理解を深める事が出来た。

出前福祉講座では、小学校の児童生徒に補助犬訓練士が補助犬育成の大変さや重要性を話し、実際に盲導犬の訓練を見てアイマスクをして盲導犬との体験歩行をする。そして視覚障害者が日常の体験談を語る事により障害者への理解を深め、共に生きる社会を築くにはどうしたら良いかを考え行動する心を醸成する。また動物に対しても思いやりの心を深める事ができる。

また週一回、宇都宮市適応支援教室「まちかどの学校」へ訪問しての動物介在活動では、不登校の児童生徒が犬と触れあう事で閉鎖的な心が癒され、今まで他の子供と係われないような子供も、犬を介して少しずつコミュニケーションが出来るようになり、子供達が一步前に進む手助けが出来た。

この動物介在活動は、まちかどの学校での重要なゼミ活動の一つとなっている。

❁ メッセージ ❁

社会的な弱者、マイノリティーの側の立場に立ち、より良い地域社会の創造を短期的な戦術と長期的な戦略を持ち活動を継続していきたいと考えています。また他団体の皆様とも連携して住み良い地域社会の創造を目指したいと思います。



にんちしょう じゃくねんせい にんちしょう かぞく がい にっこう認知症・若年性認知症家族の会

代表 江連充子

住所 〒321-1261 栃木県日光市今市3043 日光市民活動支援センター内
TEL 0288-22-2271
FAX 0288-22-2271

❀ 目 的 ❀

認知症・若年性認知症の当事者とその家族が仲間同士支え合い、また認知症への理解を周囲に広め、認知症になっても尊敬をもって安心して暮らせる地域づくりを目的とする。

発足に当たっては、若年性認知症の夫を抱え、悪戦苦闘している家族が、「安心して語り合い、共感しながら共に支え合う」場の必要性を強くして、市民や行政に訴え、行政側(包括)を巻き込み、理解者と共に家族会を設立した。行政にとってもなくてはならない存在となり、活動が開始された。

❀ 事業内容 ❀

- ① 認知症・若年性認知症の人と家族の集い
- ② 認知症サポーター養成講座の理解促進のための協力
- ③ その他 目的達成のために必要な事業
 - (1) 認知症に関する講演会や講座の実施
 - (2) 介護保健施設や病院見学
 - (3) 傾聴技法に関する学習会
 - (4) 県内の認知症家族の会との交流会
 - (5) アルツハイマーデーにおけるチラシの配布
 - (6) 認知症啓発イベントへの参加 認知症声かけ模擬訓練(モデルとしての参加)
 - (7) 地域における介護者交流会への参加協力
 - (8) 認知症に関する電話相談および助言
 - (9) 会員間の交流・相互理解に関すること

❀ 活動報告 ❀

① 毎月第3月曜日10:00~12:00集いを実施

来談者の問題や悩みを傾聴し、グループディスカッションや経験者からのアドバイスを行ってきた。なお、個別相談も実施してきた。ただし、制度や専門的な内容は、行政(包括)の方に対応していただいた。

② 地域住民への認知症に関する理解を深めるための啓蒙に努めた。

(1) 行政が実施する認知症サポーター養成講座で認知症介護についての体験を交代で発表してきた。

(2) 認知症の親やご自身も軽度認知症の方の体験を市民参加で、当会発足「3周年記念行事」として開催した。

(3) 認知症声かけ模擬訓練に協力・参加、市民に対する啓発活動を行った。

③ 会員のスキルアップ

(1) 専門家による傾聴技法を学び、集いに役立てた。

(2) 全国キャラバンメイト養成研修に4名が参加。今後に備えた。

④ 他の団体との交流会

県内の認知症家族の会との交流を深め、情報交換をして当会の運営に役立てた。

⑤ 福祉施設と医療機関の見学

地域にある認知症を受け入れている施設の存在、施設の概要・特徴を知り、今後に役立てた。

⑥ 病院や医院・福祉施設に当会のリーフレットを置かせていただき、必要な方に配布していただいた。

⑦ アルツハイマーデーには、毎年地域の街頭でリーフレットを配布し、啓蒙に努めた。

❀ メッセージ ❀

認知症への理解を多くの地域に広めることを目的に、私たちが経験した苦しかった体験に意味を見出し、住み慣れたその人の地域で認知症の人もその家族も安心して暮らしていける社会の構築を願いながら、世話人同士が心をひとつにして、社会になくってはならない認知症・若年性認知症家族の会を社会の「宝の城」にしていきたい。

どんな人でもどこの人でも、私たちの「宝の城」へ迎えたい。



アルツハイマーデーでの行政と当会の三周年記念行事「物取られ妄想」の悪い嫁と良い嫁を演じているところ



「認知症声かけ模擬訓練」でモデル出演をして、市民の方が声かけをしているところ

とくていひえいりかつどうほうじん 特定非営利活動法人 なんとなくのにわ

代表 理事長 手塚 郁夫

住所 〒321-1261 日光市今市378
TEL 090-3227-7079
FAX 0288-21-2631
E-mail info@nantonakuno.net
URL <http://www.nantonakuno.net/>



❀ 目 的 ❀

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出すことを目的として活動しています。

❀ 事業内容 ❀

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年や障がいのある人の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、子どもたちに自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業

活動報告

■ 「なんとなくのにわ」って？

「不登校の子どもたちの居場所・フリースペース」のニックネームです。「学校に通うことを強制せず、子どもたちに寄り添い、多様な生き方を応援できたら」、「親が交流できる場所があったら」、「学校以外のもうひとつの学びの場を作りたい」と集まった大人たちが2004年6月に始めました。本年度より日光市教育委員会の事業に転換。日光市からの委託を受け、いままでのスタイルを継承した「居場所」が始まっています。

■ どんな人たちが関わっているの？

不登校の子を持つ親、発達障がいの子を持つ親、保育士、小学校や高校の教員経験者、障がい者福祉関連の有資格者など、「不登校」に関心を持つ人たちが運営しています。



不登校を経験し、子どもと気持ちを通じ合える若者たちが、居場所スタッフとして運営に参加していることも特徴です。

■ どこにあるの？

日光市平ヶ崎、自然にかこまれた環境です。

読書をしたりゲームをしたり、自由に過ごすことができます。

毎週 月～金 夏休み中は 火・金 のみ、開所時間 12時30分～16時30分

祝日は休みます。費用負担はありません。見学自由ですので、気軽においでください。

写真（右から時計回りに）

■ ボランティアフェスタ（9月）

本会に集う若者たちが大活躍。

■ 日光市・だいや川公園での イベントに参加(つくって遊ぼう!)

■ 川むしたんけん隊

水中の生き物を調べています。

イラスト：Numata（本会理事）

大学でマンガを学ぶ。「こどもの居場所」スタッフ、ホームページ管理などを担当。



✿ メッセージ ✿

「こどもの居場所・なんとなくのにわ」は本年度より日光市委託事業となりました。長年お世話になった報徳今市振興会館から移転した新しい「居場所」は、日光市平ヶ崎の自然豊かな環境にあります。すぐそばには田川が流れ、少し歩いて琴平山展望台に登れば、周辺の町並みが一望できます。スポーツが楽しめる芝生の公園も近くにあります。

家の中には、読書や音楽鑑賞、楽器、ゲーム、ペーパークラフト、木工などの道具もそろい、自由に過ごすことができます。インターネットへの接続環境も整備しました。

見学や訪問、いつでも歓迎します。どうぞ気軽にお立ち寄り下さい。

居場所の活動以外に、「サイエンス・カフェ」、「発達障がい」についての勉強会など、会のメンバーがそれぞれの得意分野で地域に向けて情報発信をしています。

ホームページには、設立から10年間の活動内容や通信が満載です。ぜひごらんください。

活動に興味をお持ちの方、仲間に入ってください。連絡をお待ちしています。



だれ 誰もが笑顔で暮らせるまちづくりを かんが かい 考える会

セブン ナーサリー SevenNursery

代 表 友 光 光 子

住 所 〒320-0072 栃木県宇都宮市若草4丁目18番6号

TEL 090-5196-4236

FAX 028-627-0310

E-mail info@sevendnursery.org

URL <http://www.sevendnursery.org>

❀ 目 的 ❀

視覚障がい者にとって外出やスポーツの機会は制限されがちです。まして中途視覚障がい者は情報源も少なく孤立しがちでした。風を切って走る爽快感が得られるタンDEM自転車はサポートがあれば体験できます。そのために障がい者自らがサポートの必要性を訴えてこそ実現していくと考え立ち上げました。中途視覚障がい者同士が集まり、日頃の悩みなどを話すうちに、日常生活において改善すべき課題が多いことに気づき、行政や企業との懇談会、福祉制度についての学習会、体験型バスツアー、栃木県が発祥のサウンドテーブルテニスの体験会も定期的にも実施するようになり、徐々にではありますが参加者が増え県内での知名度も上がってきました。本年度から始めた居場所づくり事業「おらほのよカフェ」では誰もが気軽に利用できるコミュニティカフェを目指して、お茶を飲みながら様々な話題で盛り上がっています。このほかにも障がい者の理解・啓発に関わる事業、誰もが参加できる体験型バスツアー事業、障がい者スポーツの振興に関わる事業、障がい者の情報化の推進に関わる事業、障がい克服のための相談・支援事業などに取り組んでいます。

❀ 事業内容 ❀

誰もが参加できる体験型バスツアーは、視覚以外の感覚を重視し、試食のある工場見学や道の駅でのご当地グルメやショッピング、タンDEM自転車が設置された公園でのタンDEM自転車サイクリングなどを実施し、毎回好評を得ています。

障がい者を補う用具や福祉制度についての行政との懇談会、公共交通事業者との意見交換会などを持ち、障がい者の生の声を訴え理解して頂けるよう取り組んでいます。

栃木県が発祥の地であるサウンドテーブルテニスや、誰もが参加できるパークゴルフをはじめとするニュースポーツの啓発・推進のための体験会などを定期的にも開催しています。

居場所づくり事業の「おらほのよカフェ」では、障がいの有無や年齢に関わらず、誰もが気軽に利用できるコミュニティカフェを目指し毎月2回実施しています。

障がい者の情報化の推進事業では、障がい者を補う福祉機器、携帯電話、音声パソコンなどの操作・活用についての情報交換、個別サポート、ホームページやブログによる視覚障がいに関する情報の発信を行っています。

障がい克服のための相談・支援事業として、歩行・調理などの実習を行っています。

❁ 活動報告 ❁

- 4月13日(土) お花見タンデムサイクリング

藤岡町のふれあいスポーツセンターには栃木県サイクリング協会から寄贈されたタンデム自転車があり、隣接する谷中湖サイクリングロードでサイクリングを楽しむことができます。藤岡に向かう途中の思川の道の駅に寄り、評判のほうじ茶味のソフトクリームを味わったり、買い物をしました。帰路には太平山の葉桜混じりの参道歩きの帰りにはお決りの卵焼きを土産に楽しい一日を終えました。

- 10月12日(土) NPO創立準備総会

10月の定例会をNPO設立準備総会として、今後の計画を確認しました。

- 10月14日(体育の日) 栃木県サイクリング協会のタンデムサイクリング参加

真岡二宮運動公園を起終点に約15キロのコースを警察の警備のものとんびりタンデムサイクリングにお招きいただきました。毎年のことですがお昼の茸ご飯が絶品でした。

- 10月21日(月) 塩原方面への体験型バスツアー

前日の大雨が嘘のような好天気のもと、塩原もみじ谷大吊り橋へ。思ったより揺れた橋を渡り切ったところの森林の駅で買い物と玉こんにゃくをパクリ。日本最大級の足湯「湯っ歩の里」ではやけどしそうなほど熱かったり、塩原名物「とて焼き」「しもつカレー」に舌鼓。帰路に矢板のチーズファクトリーでシーズの試食とお買い物。今回のバスツアーでは食欲の秋を堪能しました。

- 11月13日(水) 行政との懇談会

宇都宮市の福祉課の方をお招きして継続的な内容を検討しました。

- 11月23日(祝) 宇都宮福祉の祭典に参加

初めて福祉の祭典に参加しました。9B会議室を会場として、フリーマーケットと音声パソコン体験コーナー、アイマスクを付けての暗闇体験(チャレンジ・ザ・ダーク)を行い大勢の方に来場して頂きました。

❁ メッセージ ❁

ひとりでは出来なくても二人ならできる。大勢集まればひとりでは出来ないことができるようになる。セブナーサリーという名前は、小さな苗が太陽の光、雨、風を受け大地に根を張り、花を咲かせ、実を結ぶように、大勢の方に励まされながら、興味・勇気・希望・努力・感動・充実感・達成感を得る事で、また新たな目標に向かい少しずつ前進していく事をイメージして命名しました。今年度から始めたおらほのよカフェは誰もが気軽にお茶出来るコミュニティカフェです。ぜひ一度お越しください。お待ちしております。



福祉の祭典での暗闇体験
チャレンジ・ザ・ダークでのお箸で
お菓子をつまむ様子



2011年春の鬼怒川
タンデムサイクリング
(二宮運動公園に到着して)



2013お花見タンデムサイクリン
グの帰りに寄った太平山